

Close-Up 挑戦のその先へ

5年度も子どもから大学生まで、多くの皆さんが内子町から全国へと飛び出し、活躍するニュースが届きました。大舞台での輝きとその裏に見える努力が、私たちに大きな勇気と希望を与えてくれます。

今回の巻頭ページでは、全国大会に出場した皆さんの活躍と、次の挑戦を見据えるそれぞれの声を紹介します。



特別国民体育大会
成年男子ケイリン／優勝

細川 拓真

Hosokawa Takumi



最高時速70^{km/h}を超えるスピードの中で、選手たちの熱い気持ちがぶつかり合うケイリン。体力はもちろん、位置取りなどの駆け引きや、一瞬の隙が勝負を左右する。オレンジ色のウェアが細川さん（写真は本人提供）

目指すはプロ。やっと立てたスタートライン

国体にはインカレの決勝のようなすごい選手が集まっています。力を出し切って、ようやく果たせた全国優勝。結果が出ず苦しい時期もありましたが、やっとスタートラインに立てたと感じています。

プロのケイリン選手を目指して県外の大学に進みました。高校時代に1カ月で走っていた距離を、大学では一週間で超えます。コーチは元ケイリン選手で、経験に基づいたアドバイスをもらえるし、「プロになつてからどれだけやれるかが勝負」と、常にひとつ上のレベルを見せてくれます。先輩たちも意識が高く、とても恵まれた環境です。これまでに大けがも経験しましたが、乗れない期間に「やっぱり自転車しかない」と改めて気付かされました。いつも支えてくれる両親のためにも、中途半端なことはできません。人に夢を与えられるプロ選手を目指して、努力を重ねたいです。



細川 拓真さん

（朝日大2年）＝乙成出身＝



全日本ピアノコンクール／金賞
第25回ショパン国際ピアノコンクール全国大会出場

本田 ひまり

Honda Himari

第25回ショパン国際ピアノコンクールオンライン
決勝大会出場

本田 あさひ

Honda Asahi



1_ 自宅のピアノの前に笑顔の本田ひまりさん（右）と、妹のあさひさん。ひまりさんは長いときで1日4時間ほど練習するそう 2_ 全日本ピアノコンクールの様子（写真は家族提供） 3、4_ なめらかな指使いを見せてくれた2人

一音を大切に、初めて姉妹で挑む全国コンクール

昨年11月の全日本ピアノコンクールで、ショパンの「即興曲第1番変イ長調」を演奏しました。初めは軽やかな感じで、中盤から転調して音が深くなります。右手を広く使うのが難しいし、今まで弾いてきた曲よりも長く感じて、集中力が要ります。金賞を取れてうれしかったけれど、まだまだ自分のしたい演奏ができていません。1月に開かれるショパン国際ピアノコンクールでも同じ曲を弾きます。練習では聞き手のことを思い浮かべながら、いろいろな表現に挑戦中です。一音一音を大切に、納得のいく演奏をして賞を取れたらいいなと思います。

4歳の妹も初めて全国コンクールに挑戦します。最初のレッスンでは恥ずかしくて泣いてしまった彼女。今はピアノに向かうとしっかり集中できるようになりました。きつと本番に強いタイプだと思います。2人でいい結果が出せるよう頑張ります。



本田ひまりさん

（立川小5年）＝立川中央＝



特別国民体育大会
ソフトボール少年男子／優勝

西 健作
Nishi Kensaku



1、2_県選抜チームのユニフォームを着た西さん。同チームや全国の選手たちのプレーに大きな刺激を受けた(写真は本人提供) 3、4_大洲高校ソフトボール部ではキャプテンを務める。同校のグラウンドでチームメイトと汗を流す



特別国民体育大会
ホッケー少年女子出場

渡部 ひなの
Watanabe Hinano



1～3_松前町国体記念ホッケー公園での練習風景。力強いストロークで速いボールを打てるのが渡部さんの持ち味。15分×4クォーターの試合を走り抜くには、瞬発力と持久力が必要 4_県選抜チームでプレーする渡部さん(写真4は本人提供)

もう一度全国へ、もっとうまくなりたい――

初めての全国大会に愛媛県選抜チームで出場しました。最終試合、0対0で2アウト満塁のチャンスに代打で出ましたが、結果は三振――。バッティングや守備も、どのチームもレベルが高く、自分はまだそこに達していないと感じました。国体を経験して、見える世界が一気に変わりました。悔しさ以上に「負けたくない、もっとうまくなりたい」という気持ちが強くなっています。

ソフトボールの魅力はスピード感があるところ。野球と比べて技術がより重要で、パワーや体格で不利でも、練習を重ねるほど上達するスポーツです。選抜チームの監督を務めた顧問の先生は「全国の選手だから、めっちゃくちゃ努力したから、うまくなったんだ」といいます。国体での経験を部でも生かして、個人もチームもレベルアップしたいです。そして県総体で優勝し、また全国の舞台で戦うのが今の目標です。



西 健作さん
(大洲高ソフトボール部2年)＝護国＝

学んだのはチームプレーの難しさと面白さ

愛媛県選抜チームでは初戦から強豪との対戦でした。ワクワクして臨んだ試合で、回ってきたボールをレシーブミス。自分の緊張に気が付き「ちゃんとしないとチームに迷惑がかかる」と焦りました。そのまま最後まで力を出し切れず、1点差で敗退。悔しい全国大会となりました。

ホッケーは仲間とボールをつなぐチームワークが重要な競技です。3校の選手が集まる選抜チームでは連携が難しいので、タイミングが合わなかった時には声をかけ合い、プレーの精度を高めていきました。つないで得点したときの喜びは大きく、国体ならではの経験ができました。

大会後、部の方針でポジションがフォワードからデフエンダーに。前線へボールを送る難しさがよく分かります。フォワードに戻っても今の経験が生きるはず。みんなでないだボールを絶対に決める、頼られる選手になりたいです。



渡部ひなのさん
(松山南高ホッケー部2年)＝内子17＝